



彩の国バリアフリー協会より

彩の国バリアフリー協会会長 戸井田秀明

この度の東北関東大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、地震・津波等において多くの尊い命が失われたことに対しましても慎んでお悔やみを申し上げます。一日も早く被災地の方々の生活が回復されますように、心よりお祈り申し上げます。

会として微々たる金額ではございますが義捐金として赤十字を通して送りましたことを事後報告になりますが、会員の皆様にお知らせいたします。

彩の国バリアフリー協会だより

第8号



広報誌発行にあたり

彩の国バリアフリー協会会長

戸井田秀明

この度の広報誌は、お蔭様で第8号の発行となります。それと同時に、本年4月13日の通常総会も8回目を迎えることとなりました。この8年間の間に、さまざまな施設や病院・ショップ・マンションの改修事例や、住宅改修事例などの見学、そして、街並みの視察、さらにはデパートの改修提案等を行ってまいりました。

しかしながら、それらの企画や勉強会に参加される方々は、会員の中でも限られた人達だけです。まだまだ、沢山の会員の皆様に興味を持って参加していただいております。

周りを見渡しても、バリアフリーという言葉は、誰もが知っていますが、実際に人の生活している環境の中に取り入れられているものは、ごくわずかです。まだまだ意識も薄く、実際にきちんと配慮されていることはほとんど

無く、必要としている人達にとつてみれば、非常に困り果てているのが現状です。工作物や建築物をはじめ、交通機関も娯楽施設も、まだまだバリアフリーを考慮して表現されていません。もっともつと沢山の皆様に、この事を理解して意識を強く持つていただきたいと思います。

そしてその事が、人の生活する環境をより良くする事につながるかと考えています。

皆様の御協力と御参加、ならびに御指導をお待ちいたしております。最後に、この度の広報誌発行にあたり、多大なる協力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。



「忍城おもてなし甲冑隊」と記念写真
昨年11月27日「ノンステップバスで行く体験ツアーin行田」は天候にも恵まれ、年末の行田を楽しく探索することが出来ました。最終目的地の忍城では「おもてなし甲冑隊」と記念写真におさまりました。



23年度 発進します！

総務部担当・副会長

佐藤啓智

ちようど事務所を出て打ち合わせに行こうとしたとたん、グラグラ・・・。

3月11日(金)に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に對しまして、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

昨年は腰の痛みには耐えきれず、とうとう決断・腰の手術をして4月で約5ヶ月が過ぎようとしておりますが、中々完壁には治らないですね。皆様も仕事しすぎの過労や、夜更かしには十分注意いたしましょう。経験者が言うので間違いは有りません。

さて、そんな具合でしたから昨年度は思い切った活動が出来ず申しわけなかったのかと反省しております。

今年度の事業を決める役員会が開催され、各部会から報告が有りました。なかなか一般会員が積極的に参加出来る事業の発掘が難しく、役員皆頭を抱えておりますが、

戸井田会長が意欲的なので、頑張らなくてはと、一年発句の覚悟で良い企画を検討いたします。



バリアフリー協会とは関係が無いかと思われませんが、ミュージシャン皆、還暦を過ぎてがんばっております。さてバンド名は？

イーグルスです。約10年ぶりの来日でしたが、昔と変わらない歌声で、素晴らしかったです。残念でしたが会場は東京ドームでは、完璧なバリアフリーではなく、補助員の方々が手助けをしての会場入りでした。こんなに素晴らしい施設でもまだまだバリアが有るのだと、こういう施設ほど優先しなくてはいけませんがお金儲け優先ですかね？

「確認してみよう！ユニバーサルデザイン・ノンステップバスで行く体験ツアー」

「in行田」

事業部担当・副会長 栗林稔昌

車椅子使用者の移動手段の1つとして、公共交通機関をよく利用する。その代表的な手段として電車・バスが挙げられるが、車椅子使用者が電車を利用する光景はよく見かけるものの、路線バスを利用する光景は中々見かけないのでないだろうか。車椅子をはじめ誰でも利用出来るユニバーサルデザイン。その代表的な交通機関となるノンステップバス。何故車椅子使用者が利用する光景を中々見ないのだろうか。



理由として
*車椅子で乗車するにあたり、所要時間が掛かってしまう
*バス到着から発車まで約4分

*乗車時多くの乗客の視線を感じてしまう。
*車内混雑時に車椅子で乗車出来ない。

*ノンステップバスの運行時間が定かではない。
*等が挙げられる。その問題点を知ってもらおうと計画した今回の企画

「確認してみよう！ユニバーサルデザイン。ノンステップバスで行く
(車椅子使用者同行)体験ツアー in 行田」

で車椅子利用者から利用時の生の声を聞くことが出来たと同時に、日頃中々聞くことが無いバス運転手からも様々な意見を聞く事が出来た。

自然との共生

理事 金子保

先日、100年に一度とも1000年に一度とも言われる大地震が発生しました。自然のエネルギーのすごさに改めて人間の無力さを痛感している方も多いのではないかと思います。しかし、それから数週間後には、今冬の厳しい寒さにも耐え抜いて桜が開花してしています。

このように、自然は人間に対して、非常に厳しい現象を起こすこともあれば、またその一方で、素晴らしい現象も起こすという、何とも難しい存在です。

このような時だからこそ、環境問題も含めて、「自然との共生」ということをみんなが知恵を出し合っていくべきなのだと思います。そして、災害弱者になりやすい高齢者や障害者、そして未来を託す子供たちを守っていける日本を再生して、笑いながら桜の開花を楽しめる日本にもう一度したいですね。

最後に、今回の震災で被害に遭われた全ての方々が、一日も早く普段通りの生活ができるようになることを祈っています。

バリアフリー

関係法規のハテナ？ (稲垣)

前回老人ホームの運営者が困っている一つは点字ブロックの設置だと書きまされた。転倒は骨折・入院・衰弱・死亡という負の連鎖のきっかけとなるためです。

先日ある審査機関に問い合わせたところ老人ホームは**特定の人**が対象であるので視覚障害者が利用しなければ点字ブロックの敷設は絶対条件ではないとの趣旨の返事をいただきました。逆に**不特定多数**を対象とする施設は必要であるの言うまでもありません。老人ホームを見学すると必ずといっていいほど点字ブロックがあります。1歩前進したと思います。

バリアフリー関連の疑問・提言その他ありましたら編集後記内の宛先までお知らせ下さい。今後このコーナーで取り上げ情報発信したいと思います。

彩の国バリアフリー協会のホームページアドレスは下記のとおりです。
<http://sainokunibarikyo.web.fc2.com/>

パリアフリー 関連の記事から

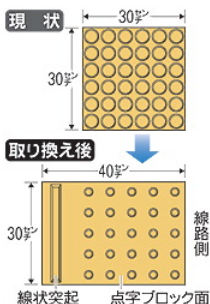
（記事の続きを読みたい方はタイトルをインターネットで検索してお読み下さい。リンク切れで読めない場合があります）

JR東日本：

管内330駅の 点字ブロック

実態調査実施へ

東京都豊島区のJR山手線目白駅で16日、全盲男性が転落死した事故を受け、JR東日本は28日、管内330駅の点字ブロックの実態調査をするを発表した。事故のあった目白駅では29日未明から、識別しやすい新型に取り換えるための地盤調査や測量を始めた。



目白駅に設置される新型点字ブロック

調査対象は首都圏で列車本数の多い268駅や視覚障害者施設の最寄り駅、新幹線停車駅。既に今月17日から調査を開始しており、識別の度合いを調べ、摩擦や埋ま

るなどして分かりにくい点字ブロックは順次交換する。目白駅の現在の点字ブロック（縦・横30センチ、点状突起物36点）は94年3月に施行されたパリアフリー整備ガイドラインに沿って整備された。交換する点字ブロックは01年8月の新ガイドラインで示された新型ブロック。

従来のブロックと比べて横を10センチ長く、点状突起物を11点少なくし、ホームの端との距離が識別しやすいように縦に山形の線状突起物を付ける。またホームの舗装面と点字ブロック面の高さを合わせ、識別しやすくする。

毎日新聞2011年1月29日

車いす大カルタ、 150人楽しむ

岐阜市で大会

車いすで大きさ約1メートル四方のかるたを取り合っただけでなく、近況報告や今の思いを語り合う大切な触れ合いの場と話していた。

部門で個人戦と団体戦を実施。福祉問題などを題材に同会が手作りした「健常者 車いすの目線になれば はじめて分かることばかり」「ワッハッハ 笑顔はみんなのエネルギー」などの句が読み上げられると、参加者は正解の札を探し、一斉に車いすを走らせた。同会代表の後藤篤謙さんは「年に1度の大会は札を取るだけでなく、近況報告や今の思いを語り合う大切な触れ合いの場と話していた。」



岐阜新聞2011年3月28日

東日本大震災： 「災害弱者の助けに」

被災地で福祉バイオリ車が活躍

海老名

東日本大震災の被災地で、海老名市国分南1丁目の警備会社「優成サービス」の福祉バイオリ車が活躍している。現地では活動にあたる八木正志社長は「少しでも、

災害弱者の障害者や高齢者の助けになれば」と話している。



福祉バイオリ車はポタン一つで、車いすを持ち上げ、水を使わずにおがくずを利用し、汚物を処理する。60度くらいで攪拌（かくはん）し、水蒸気を放出すること、においも極力抑える。

八木社長は21日、福祉バイオリ車2台、社員2人とともに宮城県石巻市に到着した。「現地の悲惨な状況に涙が出る。わたしたちの活動が少しでも障害者らに喜んでもらえれば」と話す。中学校などの避難所で車が待機し、1日お程度の車いす利用者に使われている。個室で暖房も完備されているため、着替えをする女性らにも感謝されているという。

同社は2009年7月、トラックに乗せた移動トイレを改造し、車いす利用者が見える福祉バイオリ車を開発した。これまで、車いすマラソンや同社主催の花火大会などで活躍してきた。今回の震災を受けて、海老名市内で連携するNPO法人「や

さしくなろうよ」（品田直子理事長）を通じて、石巻市で受け入れ態勢が整っていることを知り、即座に協力を決めた。

八木社長は「仮設トイレはあるが、下水が復旧していないため、過酷な状況が続いている」と話す。23日にはさらに社員ら4人がバイオリ車1台に乗り込み、宮城県石巻市の避難所に向かった。

神奈川新聞

2011年3月27日

重度障害者の 在宅医療網渡り

停電とガソリン不足

深刻

震災によるライフラインの断絶が、人工呼吸器などが必要な重度障害者の「いのち」を脅かしている。電気とガソリンは機器の作動に欠かせず、復旧の遅れに患者家族や医療関係者の声は悲痛さを増す一方だ。



脳出血で遷延性意識障害となり、在宅生活を送る仙台市青葉区の男性（58）は人工呼吸器とたんの吸引器が手放せない。

地震発生後、自宅が停電した。妻（54）は人工呼吸器を内部バッテリーで6時間、自宅マンションの非常用電源で4時間駆動させた。ついに代替電源がなくなり、病院に救急搬送。辛うじて呼吸をつなぐことができた。

妻は「停電は仕方がないと思っている。この先どうなるのか、不安は大きい」と話す。青葉区の仙台往診クリニックは、人工呼吸器やたんの吸引器が必要な在宅の患者約120人の往診をしている。

地震直後の停電で患者は自動車のシガーソケットや自前の小型発電機で電源を代替してきたが、どちらもガソリンが必要だ。このためクリニックは14日、職員総出で手持ちのガソリンを患者宅に配った。

通常、往診や訪問看護には乗用車を使用している。ガソリン不足は今後の診察に支障を来す。

川島孝一郎院長は「停電で呼吸器や吸引器が止まる事態になれば救急搬送することになり、被災者の治療でべ

ツドの足りない病院に影響が出る。在宅でのしるげをする配慮が必要だ」と語った。

宮城県内の停電はなお広範囲に及んでいる。東北電力は3日間予定した計画停電のうち、初日の16日は中止したが、秋田、山形両県と青森県の一部では今後、実施する可能性がある。対象地域の在宅療養患者の生活には深刻な影響を及ぼす。

東北電力の一部の支店・営業所は、人工呼吸器などが必要な重度障害者を登録。患者側が準備した予備バッテリーでも不足する場合、小型発電機や移動電源車を回すこととしているが、「数に限りがあり、個別に重要性を相談させていただきたい」と話している。

河北新報2011年3月17日

編集後記

埼玉の中でも行田は川越に勝るとも劣らない観光名所です。忍藩十萬石の城下町でありながら、古墳あり、足袋屋敷あり、蔵あり、食には名物の「フライ」と「ゼリーフライ」があります。その上時期によっては古代蓮まで見られるというのだからとても1日ではまわりきれません。

せん。



行田名物フライ・ゼリーフライのキャラクター

「ノンストップバスで行く体験ツアー in 行田」はそんな行田を車椅子使用者(当協会栗林氏・特別参加いただいた忍田さん兩名)と一緒に探索する企画です。(ノンストップバスの検証は栗林氏の報告をご覧ください。)

他団体(事務所協会・UDステツプ)や会員知合いの方を含め総勢13名が参加しました。

2班に別れ、さきたま古墳公園 ↓ 水城公園 ↓ 銅人形の街並み ↓ 忍城 という順路で途中各班自由で昼食をとりながら探索。ややぶつけ本番であったため昼食場所を見つけないに皆さん苦労しました。



銅人形



古墳

市は近年まちの中心部の道路を整備して無電柱化したついでに地上の機器ボックスの上に銅人形を乗せて更なる観光資源としました。ただし道路と歩道の段差が大きく(約20cm)摺りつけ勾配がきついとあり、バリアフリーの観点から見るときびしい部分があります。



忍城



武蔵野銀行前

古い建物の中には景観上優れたものも残っており楽しい探索となりました。



勾配が緩やかで車椅子のため一部段をなくした摺り付け



勾配が急な摺り付け

会では今後もいろいろな企画を考えていきますので、まだ参加されていない方もお気軽にご参加下さい。



街歩きの後には新都心に戻って早めの忘年会。まだ12月になっていないのにすでにまちの飾りつけはクリスマス。楽しい1日が更けていきました。



探検隊が行く

本年(23年度)1回目の広報誌発行となりました。次回秋頃を予定します。(不定期発行で申し訳ありません) 忙しい中寄稿していただいた役員の皆様ありがとうございました。 今後新入会員や賛助会員の紹介のコーナーも設けたと思います。

情報をお寄せ下さい。

バリアフリー関連法規についての疑問・ニュースその他ございましたら左記メールアドレスまでお知らせ下さい。役立つ情報を発信し、この広報誌を会員の皆様との情報交換の場としたいと思います。送って下さる場合はお名前・連絡先明記をお願いします。

(y-king@rbh.ne.jp) 広報担当 稲垣

発行者
彩の国バリアフリー協会
〒336-0031
さいたま市南区鹿手袋4-1-7
埼玉県産連会館
TEL 048-864-9313
FAX 048-864-9381